



# 農家生まれの農家育ちを生かし ～メダカやトキの復活をまちづくりに生かす

おおくぼ としお  
おやま 小山市長(栃木県) 大久保寿夫  
Toshio Okubo

## 開運のまち～小山

小山市は、栃木県の玄関口に位置し、東京駅から60km、新幹線で40分足らずの国道・鉄道と共に交差する交通の要衝にある、人口16・5万人の県下第2位の都市です。一方、国指定史跡が7カ所もある古い歴史も持つっており、特に、徳川幕府300年の栄光の道筋を付けたといわれる天下分け目の軍議「小山評定」の開かれた「開運のまち」であります。

## 田んぼの学校づくりから ラムサール条約湿地登録へ

私は、農家生まれの農家育ち。小さな頃からメダカやドジョウ・牛や豚を友として、子どもにとっては「キツイ」田植えなども強いられる環境で育ち、農業の労働を楽にしたいとの願いから農林省(現在の農林水産省)に就職しました。そして、北は北海道から南は九州までの転動生活



天下分け目の軍議が行われた小山評定跡

の中で、メダカをはじめドジョウなどが消えつつあるのに危機感を持ち、その復活をライフワークにしています。

メダカやドジョウとの触れ合いは、子どもに生き物の命の大きさ、貴さ、そして生き物への慈しみの心を知らず知らずのうちに学ばせます。そんな生き物の住める環境を取り戻そうとの思いで「メダカの学校」を、体験や労働を通じて心豊かで元気のよい子どもを育てたいとの思いで「田んぼの学校」づくりを始めました。「人は、いのちづくりにいそしんでいる時が一番輝いています」。

「田んぼ」はまさに、「遊び」と「学び」の宝庫です。「田んぼの学校」は、平成19年には、市内全域64カ所にわたる「農地・水・管理保全事業」へと発展し、平成24年には、「渡良瀬遊水地」のラムサール条約湿地登録となって結実しました。そして、今年、条約登録の目的である「賢明な活用」として「エコミュージアム化」「トキ・コウノトリの野生復帰」「環境にやさしい農業推進」をスタートさせるべく意気込んでいます。

## 中国との関わり トキ・コウノトリの野生復帰

月から見える地球最大の構築物「長城」。その長城から北東に3000km余り、ロシアとの国境を接する黒龍江省に、面積

残念ながら日中トキのペアからは、ひなは誕生しませんでした。1999年中国から贈られたつがいから4月、人工ふ化でひなが初めて誕生し、2008年に始められた放鳥で、昨年4月、自然界で36年ぶりにひなが誕生しましたことは、大きな喜びでした。いつしかトキが、わが小山市に飛んで来て欲しいとラムサール渡良瀬遊水地で現在、「トキの野生復帰」のための条件づくりに努めています。

## 小山ブランドの創生

私は農家生まれの農家育ちを生かし、市長就任後直ちに「小山ブランド」の創生に取りかかりました。市には「水と緑と大



渡良瀬遊水地から富士山を望む

地」の豊かな自然と人々の高い技術によって生み出された素晴らしい農畜産品が数多くあります。かつて全国一だったビール麦、現在、全国一のはとむぎをはじめ県下一の小山和牛、米パン、地酒、お菓子類などの農畜産品、加工品。2010年世界のユネスコ無形文化遺産に登録された世界唯一の手づくりの絹織物である「本場結城紬」、間々田ひも、下野人形などの工芸品。どれも全国に誇れる「小山ブランド」です。この「小山ブランド」の創生・発信拠点が2006年設置した「道の駅思川」です。オープン以来、「日本一のロケーション」「日本一の開放的で明るい姉妹都市ケアンズ風の建物」「日本一の小山ブランド」「日本一のサービス」「日本一の売上」を目指して頑張っています。

## スポーツのまち小山 ～褒めて育てる

スポーツは見るのもするのも好きですが、特に、「野球」には子どもの頃から親しんでいます。当市の野球は、古くは江川卓(元巨人)、広澤克実(元ヤクルト)を輩出。現役では、成瀬善久(ロッテ)をはじめ飯原晋士(ヤクルト)、高谷裕亮(ソフトバンク)などの地元白鷗大学出身選手が活躍中。白鷗大学からは、この8年間で7名もプロ入りしています。栗山英樹白鷗大学元教授は、昨年監督就任1年目



田んぼの学校の田植え

約1000万haの湿地「三江平原」があります。中国政府は1979年、この湿地を大穀倉地帯とすべく、モデル地区の開発を日本政府に要請してきました。この日中国交回復後初の協力である「三江平原農業開発計画」に農水大臣視察が計画され、その訪中団員として選ばれた私は、その後「中国」と深く関わることとなりました。三江平原農業総合試験場計画が開始された1986年、私は農水省から外務省に出向し、北京の日本国大使館一等書記官として赴任しました。

中国大使館での仕事は、多岐にわたりましたが、中でも、日本で絶滅寸前であったトキの伴侶として中国トキの貸与役を務めたことが、強く印象に残っています。



萩野選手と海老沼選手の功績を称える懸垂幕

で、日本ハムをリーグ優勝させる離れ技をやったのけました。私は、小山のスポーツを育てるために、「褒める」ことを心掛けています。「褒めて育てる」。

今やロッテのエースとして活躍している成瀬も飯原、高谷も皆、県・関東・そして全国と活躍するたびに市役所と呼ばれる活躍を褒めました。昨年開かれたロンドンオリンピックでは小山出身の萩野公介君が競泳で、海老沼匡君が柔道で、共に「銅メダル」獲得の快挙を成し遂げてくれました。彼ら2人も小さい頃から活躍を褒め讃えたものでした。これからも小山のスポーツを褒めて育てて強くしていきたいと思っています。



小山市長 大久保寿夫